25th

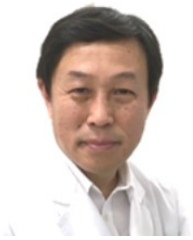
25周年記念誌

南医療生協かなめ病院

2000－2025

設立25周年のご挨拶――地域医療の「かなめ」として、これまでも、これからも――

院長　神田茂



かなめ病院は2025年に、設立25周年を迎えることができました。この四半世紀におよぶ歩みを支えてくださった地域の皆さま、患者さまとそのご家族、そして共に汗を流してきた職員一人ひとりに、心より深く感謝申し上げます。

当院の歴史は、2000年の介護保険制度創設に合わせ、高齢者医療・福祉のネットワークの「かなめ」となるべく始まり、地域の方々に支えられ、健康と暮らしを支える幅広い連携の基盤を築いてまいりました。

私たちは常に、地域の皆さまの声に応えるべく変化を続けてきました。当初は療養病院として、認知症の早期発見や予防、障がい者の暮らしを支えるリハビリを重視した診療の経験を重ね、2007年には回復期リハビリテーション病院へと転換いたしました。「より良いリハビリを提供したい」という職員全員の情熱により、2017年には最高水準の施設基準である「入院料1」に到達しました。

2010年南生協病院移転に伴う外来棟新設の際には、組合員の皆さまから多大な出資と期待を寄せていただきました。こうした一歩一歩が、現在のかなめ病院の礎となっています。

近年では、コロナ禍という新たな試練もありました。地域の皆さまや民生委員の方々と協力し、予約や移動が困難な方々がワクチン接種に取り残されないよう連携する活動を通じて、かなめ病院と地域のつながりは新たな段階に踏み出すことができたと実感いたしました。さらに2025年からは区政協力委員の皆さまとの連携で、住民の皆様の相談窓口の常設も始めています。

これから私たちが目指すのは、医療や介護の質の向上や事業の継続にとどまらず、地域連携の「かなめ」となる機能を高め、誰もが住み慣れた地域で自分らしく暮らせるまちづくりに貢献することです。

かなめ病院はこれからも皆さまと共に、一歩ずつ未来へ歩み続けます。

かなめ病院25周年にあたって

総看護課長　大地美和子

かなめ25周年を迎えるにあたり、総看護課長として心よりお祝い申し上げます。2000年に療養型病院として開院した当院は、地域の高齢者医療を支える場として歩みを始めました。2007年には回復期リハビリテーション病院へと大きく転換し、在宅復帰をめざす患者さんを支える役割を担うようになりました。私自身は2009年にかなめ病院へ配属となり、翌2010年春、南生協病院の緑区への移転と同時に外来棟がオープンした節目を現場で経験しました。地域からの期待が一層高まるなかで、看護の責任と可能性を改めて実感した出来事でした。

その後も医療環境は大きく変化し続けましたが、2020年に新型コロナウイルスが流行した際は、これまでにない緊張と制約の中での医療提供を求められました。感染対策と安全確保を徹底しながらも、多職種と協力し、リハビリを止めることなく、患者さんの「家に帰りたい」という願いを実現するために、スタッフ一人ひとりが知恵を出し合い、力を尽くしてきました。困難な状況でも看護の原点を守り抜いたこの経験は、かなめの確かな財産であり、今につながる大きな力となっています。

25周年は、これまでの歩みを振り返るとともに、次の未来へ向けた新たな出発点です。患者さん・ご家族に寄り添い続ける看護を大切にし、職員が誇りを持って働ける環境づくりを進めながら、地域に信頼される病院であり続けたいと考えております。

これまで支えてくださった皆さまへ深く感謝申し上げるとともに、かなめのさらなる発展を心より祈念し、お祝いの言葉といたします。

「その人らしい人生」を取り戻すための伴走者であり続けます

リハビリテーション科　科長　内藤光祐

かなめ病院が創立25周年を迎えるにあたり、リハビリテーション科を代表してご挨拶申し上げます。この四半世紀、地域の皆さまに支えられ、患者さん一人ひとりの「生活の質」を高めるために歩みを重ねてまいりました。縫製ボランティアの温かなご協力、患者会での交流、男塾のかなめ病院へのご支援、ふれあい食事会で振る舞われるカレーなど、名南地域の方々とのつながりが、私たちの活動を豊かにし、リハビリテーション科の発展を支えてくださいました。

これまでの歩みを礎に、私たちは未来に向けて新たな挑戦を始めています。2025年12月よりリハビリ室のリニューアル工事を開始し、2026年4月には全面オープンを予定しております。新しい環境のもとで、より快適かつ効果的なリハビリを提供し、患者さんが安心して取り組める場を整えてまいります。

また、回復期リハビリテーション病院として、これまで以上に質の高いリハビリを展開し、患者さんの社会復帰や生活再建を力強く支えていきます。さらに、デイケアや外来リハビリテーションの枠を拡充し、地域の皆さまに幅広くご利用いただける体制を整えることで、地域全体の健康づくりに貢献していきたいと考えています。

未来を見据えた私たちの目標は、単に機能回復を支援するだけでなく、「その人らしい人生」を取り戻すための伴走者であり続けることです。医療技術の進歩を積極的に取り入れ、地域との連携をさらに深め、患者さんとご家族が安心して暮らせる社会づくりに寄与してまいります。

25周年の節目は、過去を振り返ると同時に未来を描く機会でもあります。これからも地域に根ざした病院として、次の世代へとつながる新たな挑戦を続け、より豊かな医療を提供できるよう努力してまいります。

最後に、これまでかなめ病院を支えてくださったすべての皆さまに心より感謝申し上げます。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

かなめ病院が名南の地域にあり続けるために

事務長　福澤弘康

2025年6月1日にかなめ病院事務長として着任させていただき、25周年の節目に立ち会えたことを光栄に思います。記念誌の作成は30周年まで待っての作成でもいいのではないかという意見もありましたが、20周年記念誌の作成をコロナ禍により見送ってしまい10周年記念誌からすでに15年作成されていなかったこと、「今」、地域で活躍してくださっている組合員さんや貢献されてきた職員の皆さんのお気持ちや努力されてきたことをまとめたいと考えたことから作成を提案し、皆さんのご協力のもとここに至っています。

かなめ病院は回復期リハビリテーション病棟の役割の独自性を活かし、組合員さんや職員の努力のおかげでこれまで成長を続け、今日に至ることができたと思います。ご尽力くださった皆さまに感謝申し上げます。

一方、今後医療需要が縮小されると予想される中で、利用者を確保し、事業を継続していくためには、さらにリハビリや病棟での療養の品質を高め、外来診療を充実し、近隣医療機関や地域の皆さんの期待に応えていく必要があります。この期待に応えられないと、医療機関や患者様から選ばれず、淘汰されていってしまう可能性もあります。そうならないよう、2023年ごろから様々な設備の更新をすすめ、かなめ病院はバージョンアップをすすめています。バージョンアップについては記念誌にご紹介のページがございますのでぜひご覧ください。

かなめ病院が名南の地域の中にあり続け、末永くお役に立てるよう、組合員さんとともに、職員一丸となって取り組んでまいります。

かなめ病院25周年にあたって　　名誉院長　後藤浩

長い間お世話になり、ありがとうございました。今年3月で85歳となります。昨年までは週3回（水・木・金曜日）の外来でしたが、2026年1月から週1回（木曜日）のみとさせていただいております 。この数年、年1～2回腸閉塞の症状が出て、南生協病院で入院治療のお世話になってきました 。数日間の点滴と絶食で軽快することを繰り返しています。つい先日も数日間の入院を経験したところです。それ以外は穏やかに過ごしています。家の隣に小さな畑がありますので、時々見守っています 。庭には蝋梅の花が咲いています。昨年はカワセミが我が家の庭に飛んできました。初めての経験でした 。畑には柚子の木があり、この頃は毎日柚子風呂を楽しんでいます 。

昔話になりますが、かなめ病院開設時には私一人でした。始め療養型の病院として開所しましたが、数年して現在の回復期リハビリとなり、対象疾患は脳血管疾患や脊髄・脊椎疾患が主な対象で、リハビリを行う病院となりました。開設した年には東海豪雨（2000年9月11日）がありました。この日、生協病院から歩いてかなめ病院へ戻りましたが、名南中学の東南の角の交差点では膝上までの水位になっており、なんとか戻りつきました。次第にバス通りの水かさが増え、残っていた職員とともに玄関の所に物を積み上げましたが、バスが通ると波が中に入るほどとなり、しばらくすると後ろから通路に水がたまり始めました 。数件の家から、家が浸水するからかなめ病院へ避難したいと数家族が避難してきていました。20時過ぎに名南小学校から電話があり、避難してきた人の中で一人だけ家に帰れないから、病院で面倒を見てくれないかと言われました。困ったときはお互いさまと思い、雨の中迎えに行きました。おぶって病院まで来て、2階で夜を過ごしてもらいました。結局、残念なことに、まだ新たらしい廊下に10cmほど浸水しました 。

今思い出すのは生協病院の緑区への移転に伴う、かなめ病院外来の拡張の件です。それまでは本館2階の2室ほどを診察室と処置室として診療を行っていましたが、かなめ病院外来の拡充が必要となりました。地域の理事の力が粘りづよく、着実に発揮され、1億円増資を掲げ地域一丸となり達成し、現在の外来棟開設にこぎつけることができました 。1億円増資活動等地域理事の活動は素晴らしいものでした 。あと特筆すべきは、神田先生、次いで紙谷先生がかなめ病院に加わってくれたことです 。現在では二人がかなめ病院を支えてくれています 。

この頃は、穏やかに日を過ごしています。散歩も心掛けていますが、寒さや、風の強さにひるむことも多いです。皆様にはお体にお気をつけ、ご無事にお過ごしされることを祈念しております。

かなめ病院25周年おめでとうございます　　初代事務長　福岡秀樹

25周年を迎えられましたこと、おめでとうございます。かなめ病院が長く地域住民・組合員からの信頼を得て、安全・安心の医療介護活動を続けられ地域医療を発展されてきたことに大変にうれしく思っています。開設以後、長く続く診療報酬と介護報酬の抑制政策の中で、今日では多くの医療機関と介護事業所の赤字・倒産危機にある社会情勢の中、かなめ病院が地域医療を守り続けていることに敬意を表します。

これは、２５年間の後藤名誉院長はじめ多くの職員の献身的な努力と未来への希望をもった医療・介護活動がすすめられたことによる力と地域組合員のみなさんとボランティアのみなさんの支える力と協同の力があったことによると思っています。あらためて、かなめ病院の元職員としてみなさんに感謝したいと思います。そして、かなめ病院の建設準備から１０年以上の間、働くことが出来ましたことを誇りに思います。

かなめ病院は、初めての医療療養型病棟及び介護療養型病棟の機能をもち、本格的なリハビリテーション医療の開始と介護保険制度の開始による介護事業などの初めてづくしのスタートでした。大変な時期でしたが、「ホッとする病院」づくりを目標にして医療・介護活動を取り組んできました。

ホッとする病院づくりのために一翼を担った組合員の運営する「喫茶」（エントランスに設置）があります。ホットするエピソードがあります。ラジオ番組「永六輔の誰かとどこかで」の七円の唄コーナーにて読まれたハガキにかなめ病院の喫茶のことが紹介されたことです。「母親に面会する前に、一杯のコーヒーと喫茶の組合員の笑顔でホット一息ついて重い気持ちを切り替えて病室に向かった。」・・・エントランスに喫茶を開いて良かったと思いました。そして、ある程度の経営安定までの多くの時間を要しましたが７年後に外来診療とリハビリの増改築ができました。

今日、戦争か平和の岐路に立ついま、平和・人権・くらしを守りぬくために、また、地域医療の崩壊をまねかないために、地域と協同の運動をすすめ、かなめ病院の発展を期待します。

かなめ病院の25周年にあたり　　初代総看護課長　服部 和枝

医療・介護事業は常に国の政策で左右されます。かなめ病院は、私が勤務した10年間で3回の転機がありました。かなめ病院開設のきっかけは、国の介護保険導入時の対応策として、南生協病院から60床のベッドを移動し、リハビリ強化の療養型病院で、20床を介護保険適用ベッドとして申請し、在宅療養患者様のショートステイとして運用しました。私は介護保険制度の準備として約1年前から医療現場を離れ、高齢者事業室でかなめ病院建設準備、職員のケアマネージャー受験準備、2級ヘルパー養成講座等、初代事務長の福岡さんや、地域の組合員さんと一緒に推進して来ました。

訪問介護は名南地域の組合員さんで立ち上げた「助け合いの会みなみ」に第1期ヘルパー養成講座の皆さんに登録して頂き、介護保険制度開始前から活動を展開。かなめ病院オープンと同時に「ヘルパーステーションかなめ」を併設。養成講座卒業生80名余の登録で、地域の訪問介護サービスを開始しました。今や介護福祉士やケアマネの資格を得て、当医療生協の介護事業の中心を担っておられる皆様を拝見する度に嬉しく思います。

病棟は、日常的に入退院の激しい状況でしたが、訪問看護やケアマネージャーの皆さんと連携しながら、当時の在宅療養をスタッフ一丸となり支援出来たと思います。看護師・介護職と協働業務も初めての事であり、他職種の知恵と力を借りて、学習し経験を積み、拘りの看護・介護療養支援が展開され、やがて地域から選ばれる病院として、実績を重ね成長出来たのではと思います。

外来では、認知症問題が社会問題となりつつある時期で神田先生の赴任と併せ、いち早く「もの忘れ外来」が開設され沢山の方が来院されました。認知症講座も盛況で、「認知症対応12カ条」を受講生で考案し、安心まちづくりのきっかけづくりに成りました。又在宅療養患者様の家族会「ほのぼの会」が認知症の家族会を発足され、学習、対応経験交流、慰労等の企画で通院患者、ご家族の安心の一翼を担って頂けた事も、医療生協らしい活動のたまものだと思っています。

訪問診療も文字どおり24時間365日の、その人らしい療養支援がなされていたと思います。「良い最後でしたね」と神田先生と訪問看護師さんの会話を今も思い出します。

開設して半年後の2000年9月の東海豪雨災害も忘れられない事です。かなめ病院とその周辺一帯の地域が水害を受けました。病院では夜通し水との格闘。千鳥小学校避難の方の夜間往診と救護、消防署に支援要請を行い、独居在宅患者様の救援活動等、職員一丸で対応しました。2階リハビリ室を一夜の救護室に転用して、地域の安心拠り所として、喜ばれました。

2回目の転機はかなめ病院が丸ごとリハビリテーション病院に転換した時です。看護・介護基準も変わり、自立評価等リハビリスタッフの関わりがより重要となる中、最も模索した時期です。貴重な60床のベッド運用の為には、他病院の相談連携室との密なる連携が必要となりました。紹介患者様の入院検討会を開催し、入院の受け入れ決定を行いました。常にベッド運用を気遣う必要があるこの仕事は、かなりストレスを感じました。

朝の申し送りにリハビリスタッフも参加するようになり、「リハ、看護、介護部門」の3職種担当制を導入。社会復帰に向けた支援が展開されて行きました。自立支援に向けたリハビリ計画を共有し、患者様を中心に切磋琢磨のチーム間連携支援は、お互い育ち合える条件になっていたと思います。毎年行っていた年度末の「一人1事例のまとめと発表」がそれを物語っていたように思います。

3回目の転機は、病院移転に伴うかなめ病院の外来医療の内容づくりでした。みなみ医療生協の発祥地である名南地域の自負に、報える外来医療の内容づくりの参考として、「全名南地域訪問行動」を計画、実践しました。職員と組合員さんの組行動で、要求アンケートの聞き取り訪問を行いました。そして多種多様の地域医療要求のまとめを、みなあん会議で検討し、今の外来が誕生したのです。

最後に成りましたが、かなめ病院を語る時、多くのボランティアさんの力があります。職員の良きパートナーとして、「病棟でのバイキング食事会、曜日毎のデイケアボランティア、エントランスコーナーの喫茶」等、地域の方の「笑顔集まる場所」を何時でも提供頂いたのが組合員さんの「協同の心・力」でした。改めて感謝致します。

今後もかなめ病院が、益々複雑化する医療・介護情勢に備えながら、地域の組合員さんや利用者様の安心、安全の拠り所として発展される様願っています。

人に寄り添い　25周年のかなめ病院

千鳥南支部　近藤　比登美

多くの組合員から療養型の病院があったらいいねの声から、南生協病院から60床を療養型へと建設が決まり、即行動。他の病院見学から始まり、お知らせ地域訪問、増資のお願いです。皆の願いでかなめ病院が出来、寄り添ったデイケアも始まり私も楽しく、ボランティア参加しました。病床はスタッフの頑張りで他の病院より自宅へ帰る確率が高く自慢の病院でした。その後リハビリ病院となり、リハビリデイとなり地域のつながりが広がりました。今度は本体の病院が大高へ移転が決まり名南地域は生協離れ、反対運動も起き大変です。説明会を開いたり、名南まちづくりの会など地域の意見のもと、かなめ病院に外来棟建設が決まり、ピカピカ未来増資のお願いです。生協があり安心してたのに移転する病院に増資なんてとんでもないと多くの声の中、なぜ移転が必要なのか説明しながら地域訪問です。

当時の室生院長が「オイ、近藤さん行くぞ」と声をかけられ、私が「どこへ」と聞くと、「訪問だが」との返事で一緒に出かけた事、地域では「室生先生が来てくれるなんて」と増資を快く出して頂きました。私も院長自ら地域訪問感激です。何度も訪問してた方からタンス貯金で旧札で10万円頂いたり、私が花畑で草取りしてたら、「オイ、近藤さん、今かなめ病院金がいるんだろう」と話しかけられ、「外来棟建設で増資集めている」と話すと、「少し金あるから、増資近藤さん所持ってくわ」と言われ、翌日になんとびっくり、ポンと百万円です。私の手元に増資用紙が無かったので領収書をと言うと、「ええわ、いつでも」と言って帰られたのです。私は即増資用紙を準備して彼の家に持って行った事など色々思い出します。多くの組合員さんの応援があり一億を超えるピカピカ未来増資が集まりました。名南地域のつながり、絆は最強。今後も支えあい、つながる町の中心に肝心・要のかなめ病院ありですね 。

南生協と共に、歩んだ人生

柴田支部　芝原隆男

３０才、病院建設と子育ての時代。子供診療所、歯科診療所には大変世話になりました。６０才前からは生協病院とかなめ病院と共に。６５～75才の１０年間、「おかげさまみなみ」福祉有償運送のドライバーとして、働きました。５０年間、僕の人生と家族の生活が重なります。

今は、自分自身はもちろん組合員さんと、かなめ病院を受診しています。かなめ病院には、自身と、組合員さんの人生がかかっています。最近、かなめ病院で子供が世話になった、子供診療所の元先生の顔を見ます。

長い時間が経過しました。組合員も職員も、継続してつながっています。かなめ病院の歴史は、２５年という期間だけでは語れない重みを感じます。

かなめ病院25周年にあたって　　白水南支部　亀井　圭子

2000年度より介護保険制度の始まりで、南生協病院の60床でかなめ病院建設をすることになり、委員会ができ、組合員・職員が一緒になって、増資のお願いや施設の説明など何度も地域をまわりました。　新病院の名前がなかなか決まらず、「健康の友」で募集もしましたが、応募もなく、委員会のメンバーで わいわい がやがや、介護の「かなめ」になってほしい、要町のバス停の前であることをかけて、「かなめ病院」という名前にきまりました。

2000年4月にかなめ病院はオープンしましたが、2000年9月には東海豪雨が発生し、かなめ病院はオープンして半年でしたが、1階部分が浸水し、被災しました。本当は建設時にかさ上げをしたかったのですが、土地の事情でかさ上げをすることができなかった経緯があります。土地柄としては水害の起きやすい地域なので、今後も災害への対策は大事にしていってほしいです。

私の同級生二人から、かなめ病院のリハビリは非常に良いとお褒めの言葉をいただきとてもうれしかったです。お一人は、車椅子生活の方が、歩けるようになった。もう一人のかたは、脊柱管狭窄症手術で大きな病院からかなめ病院へ転院され、リハビリでよくなったとのことです。これからも、周りの人たちに、もっと宣伝したいと思います。

2010年に南生協病院は緑区へ移転しました。移転することが地域で提案されたとき、この地域のみなさんはとても大きなショックでした。自分たちで作ってきた病院が移転してしまう･･･それはもう大反対。長い話し合いの結果、南生協病院は移転しました。移転の条件として、巡回バスを走らせること、今は、市バスが走っています。もう一つは、かなめ病院で週1回でもいいから夜診をすることを約束していましたが、それがまだ果たされていないのは残念です。

コロナ禍以後、組合員と職員の関わりは大きく減っています。本当は以前のように、組合員と職員が親密につきあい、地域での班会や行事づくりをもっと一緒にやっていけるといいなと思っています。　また、南生協に限らず、町内でもお祭りができなくなっています。地域を支える担い手がなかなか見つからない中、学区とささえあい事業をスタートできたのは、とても良いことだと思っています。南区では南生協はなかなか行政との関わりを持つことができなかったように思います。この取り組みが前進することを願っています。

「かなめ病院」の思い出　　伊藤　他美子

「かなめ病院」二十五周年、おめでとうございます。

「かなめ病院」オープンの二〇〇〇年は、私にとりましても忙しい年でした。生協病院に入院していました父が、「かなめ病院」オープンと共に回復期リハビリ病棟に移ることになりました。ところが、すぐにベットから落ち骨折。また生協病院に逆戻り。七月に再び「かなめ病院」に戻り、三日したら、申し込んでいた施設に入所出来る事になり、また移動。そこは利用者中心の介護、同性介護などとても恵まれた施設で二年三ヶ月過ごすことが出来ました。

二〇一四年には、台風が来るというニュースに同じ町内の高齢の男性が一人暮らしの不安から、早々に小学校へタクシーで避難しようと行かれたのですが、「避難所は開設しない」と言われ、町内会長をしていた夫に学区役員の方から迎えに来るよう連絡がありました。その方は、「伊勢湾台風で恐ろしい目に遭い、自宅では不安で過ごせない」とのこと。つい先日まで「かなめ病院」に入院されていたそうです。どのように対応するか悩みましたが、四階建ての「かなめ病院」の廊下でも良いから泊めて頂けないかとお願いしたところ、運良く対応して下さった職員の方が、彼が最近まで入院されていた事をよくご存じで即、泊めて頂ける事になりました。翌朝、台風も去ったので、おにぎりを持ってお迎えに行きますと、すでに朝食も戴いてお元気な様子にホットしました。

「かなめ病院」の対応に感謝の一言でした。地域にこのような施設が有るという事は安心で心強い限りです。「かなめ病院」の益々の御発展をお祈り致しております。

かなめ病院25周年記念おめでとうございます　　千鳥北西支部　　馬場　喜代江

私のボランティアのきっかけを書き始めます。私は名古屋へ嫁いでから主人の会社の事務をしていました。会社の都合で中区から南区荒浜町に移転、私の家族「主人 息子 私」三人だけ今の三吉町に引越しました。主人が平成八年に会社で「ケガ」をしたので近くの病院それが南生協病院でした。入院中頭の検査を調べて頂いたら脳腫瘍が若い時からのが出来ていると云う事がわかり手術をして頂きました。二日三日後喉に何かが詰まって死にそうになったのですが先生方看護師さんの方のお力で助けて頂きました。ホントにうれしかったです。その時代は4月から11月まで入院させて頂き有難かったです。その後は通院でリハビリを頑張ってました。一、二年たってから生協病院の柴田純一さんが家に来られて「運営委員になってほしいんだけど･･･」を話されました。何をするのかわからないけど主人が大変お世話になったので何かお返しをしなくては･･･と思い返事をしたのだと思います。運営委員会に参加したらやさしく色々と教えて頂きました。主人はずっとお世話になりましたが平成16年に他界しましたホントにありがとうございました。前置きが長くてすみませんでした。

「かなめ病院建設推進委員会」が1998年6月に始まりました。加入、増資を頑張り設計の方々と職員さんと組合員さん月一回の会議があり意見を話合いしました。2000年4月に60床のかなめ病院が始まりました。その年の秋だったか東海豪雨に遭いかなめ病院一階部分が被害に遭いました。その後、南区にあった生協病院が緑区に移転すると云う話が突然出て、名南ブロックの皆はビックリして反対の方も多かったです。そこで、2008年11月にはかなめ病院の外来を広める為の「名南ブロック健康まつり」、2009年6月にはかなめ病院増改築着工式を行いました。増改築には一億円集めなくては･･･と云う事で先生方、職員さん、組合員さんで一生懸命頑張りました。集まりそうなころに、「あと3000万円足りない」と云われたことを覚えています。一度行って断わられても又職員さんと一緒に伺ってお願いして増資を頂いたお家もありました。一億3000万円を集めきった皆の力は大きいです。今では、利用者様から「リハビリ科の方は若い方が多く頑張ってくれていてとてもやさしいし、喜んでいらっしゃる」、と云う声をよく聞きます。整形外科が無くて困っていましたが今では立派な先生に来て頂いてありがたいです。最近では25年もたっているのでいろんな機械、医療機器、設備など古くなったものが次々と改修されきれいになりました。「お風呂、トイレ他」大変な費用がかかったと思います。増資をしなくては･･･少しずつですが私は積立を毎月やってます。皆様にも加入増資をお願いしてますがなかなかむずかしいです。でも頑張らなくてはと思っています。これからもかなめ病院は地域の方々その他だれでもかかりやすい病院でありますように･･･

患者・組合員さん待望のかなめ病院、四
かなめ病院オープンフェステ
オープンを祝う地域、支部、職員の企画がいっぱい！
送迎用のマイクロバス予定しています
3月26日(日) 午前10時～午後3時まで
かなめ病院と南隣の駐車場
★午前10時／オープンセレモニー
くす玉・テープカット・主催者あいさつ
記念講演
『ボケは防げる、治せる』
金子 満雄氏 浜松医科大学臨床教授 浜松医療センター副院長
午後1時～2時20分
「もちつき」と「おしるこ」もでます
第1回もちつき：11時30分
第2回もちつき：12時30分
第3回もちつき：13時30分
かなめ病院開設にあたって
かなめ病院院長　後藤　浩
2000年3月号　健康の友　第386号

年表

1998	かなめ病院建築推進委員会結成
2000	4月1日　南医療生協かなめ病院オープン（療養病床…医療40床、介護20床） 介護保険で訪問リハビリ・デイケアを開始。居宅介護支援事業所・ヘルパーステーションかなめ・みなみ訪問看護ステーション開設。 9月11日　東海豪雨被災。1階フロアの水没を経験。
2001	2月　介護支援事業部開設
2006	回復期リハビリ病棟プロジェクト発足 介護病床20床→10床へ
2007	1月　回復期リハビリテーション病棟基準取得（3階32床）。4階は療養病棟28床 名南地域に「みなみ安心まちづくり推進委員会」が立ち上がり、名南ブロックの医療・介護のあり方の検討を開始。 6月　南生協病院移転に伴うかなめ病院外来機能の充実を理事会にて確認。 11月　回復期病床60床全面稼動・電子カルテ導入
2009	2月　医療請求を紙レセプトからオンライン請求へ移行。 8月3日　新外来増築工事開始。
2010	2月21日　かなめ病院新外来棟竣工式・内覧会・10周年祝賀会 3月1日　かなめ病院新外来棟オープン
2011	「かなめ回復期リハビリ病棟宣言」をまとめた
2017	回復期リハビリテーション入院料1を取得 デイケア短時間型サービス開始 スマイルはつらつプロジェクト（住民主体の健康づくりへの支援について地域から要望　成果の一つの「かなめ式バランス体操」は地域で長く利用された）
2020	新型コロナウイルスの流行によりコロナ禍へ突入
2021	5月　コロナワクチン65歳以上の接種開始時、かなめ病院職員が講師となりコロナワクチン予診票班会を開催
2023	7月　「かなめ病院　医療構想」をまとめた 12月　日本医療機能評価機構3rdG:Ver.3.0（リハビリテーション病院）初回取得
2026	3月リハビリテーション室全面リニューアルオープン（予定）

かなめ病院のあゆみ

ーかなめ病院の誕生　高齢者医療・福祉安心ネットワークの「かなめ」を目指して

1998年にかなめ病院建設推進委員会が結成され、介護保険制度創設に合わせ、高齢者医療・福祉安心ネットワークの「かなめ」となるべく、2000年にかなめ病院が開設されました。初代院長には、地域での障がい者診療を牽引してきた後藤医師が就任しましたが、開設直後に東海豪雨のため1階が水没し波乱の幕開けでした。かなめ病院は、60床の療養型病床として南生協病院から分割して誕生しました。両病院の病床数を足すと373床（みなみ）であることを今では知らない職員が多くなりました。

南生協病院で行なっていた在宅診療は、かなめ病院に移転し、訪問看護ステーション、病院から派遣する訪問リハビリ、ヘルパーステーション、介護支援事業部（福祉用具）、指定居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）が1箇所に集約され、在宅療養を支えるサービスの連携は盤石の構えとなりました。一方で、現在から振り返ると、この頃は法人内のサービスで固めていて法人外の事業所との連携は限定的でした。

ー認知症の早期発見・予防、フレイル対策を地域に広める

外来は後藤院長がパーキンソン病や障がい者、神田医師が認知症を担当し細々と始まりました。特に認知症外来の利用は少なく、受診いただいても大抵症状がひどいため、精神科の入院先を探して電話をかけ続ける日々でした。認知症の早期発見、早期からの適切な介護の必要性を実感し、当時大学からの非常勤だった神田

医師は、週末の休みを利用して班会に出かけ啓もう活動を始めました。世間も高齢化で認知症が増えていくことが話題になり始め、大きな集会で話をさせていただく機会が増え、自治体と連携した活動も依頼されるようになりました。このように、かなめ病院は周辺の地域や南医療生協全体において、予防活動の「かなめ」も担う病院へと成長していきました。

ー回復期リハビリテーション病院への転換

2005年にはみなみ障害者診療所が閉鎖となり、そこでの診療をかなめ病院が引き継ぎ、障がいや認知症を持った方々に益々頼られる病院となりました。一方で、国の病院機能改革により療養型病床は整理されていくこととなり、病院の事業を継続するため変革を迫られました。当時からかなめ病院はリハビリを重視した入院診療を行い、通所リハビリや、法人事業所全エリアの在宅訪問リハビリも担っていました。そこで2007年からは回復期リハビリテーション病院に転換し、障がいを抱えても地域で安心して生活して行くニーズに応えていくことになりました。

ー365日高水準のリハビリを提供できる病院に進化　　職員みんなで業務改革

もっと良いリハビリを提供したい。定評のあるリハビリ病院を見学してまわり、全職員で半年以上かけて考えました。退院後の実生活を見据えた目標に向けて、生活を支援してくださる方々とリハビリの過程を共有して、生活の再建に向けて準備をしていくこと、濃厚なリハビリができる貴重な期間限定の入院だからこそ1日も無駄にせず365日毎日リハビリ治療を提供することの2点を柱にして2011年に「かなめ回復期リハビリ病棟宣言」をまとめ上げました。その後も体制強化と業務改善を継続して、2017年には回復期リハビリ病院としては最高の施設基準である入院料1に到達しました。

ー外来診療棟を新設　　南生協病院移転後のかかりつけ外来として

2006年に南生協病院の緑区への移転が決まり、名南地域のかかりつけ病院として、かなめ病院の外来機能を充実させる計画が、千人会議10番目のゾーンの重要課題として位置付けられました。組合員と職員が地域を巡り、かなめ病院が一般外来を引き継ぐことをお知らせし、地域の皆さんのご意見や期待と1億3500万円

の出資を集めることができました。2010年に南生協病院の移転に合わせて外来棟を完成、障がいや認知症を抱えた方の診療で培った特性を生かした一般内科のかかりつけ診療が始まりました。

設備のバージョンアップ

2023年1月 全身用X線CT装置

Canon AquilionStart(TSX-037A/2B型)

大幅に高性能化しました。画像は以前より鮮明になり検査スピードも速くなったため患者様への負担が減りました。

2023年5月 温冷配膳車

Fujitaka NFRW-iC-F

かなめ病院では初導入。患者アンケートでは「食事が冷たい」というご意見がしばしばありました。導入後、温かい食事提供で患者満足度アップに繋がっています。

2023年6月 ベッド

パラマウントベッド

センサーが内蔵で転倒・転落リスクのある方が動いた時にすぐ駆け付けることができます。前後片方だけでストッパーの操作ができるようになり、職員の負担軽減につながりました。

2024年12月 非常用発電機

大成有楽不動産

稼働時間156分→76時間に。軽油の追加でさらに延長可能。災害時、一定の電気供給下での対応が想定できるようになりました。

2026年2月 天井走行 懸架装置

モリトー

天井から吊って歩行訓練等を行なう天井走行導入。重症な方も安全にリハビリをすることができます。

2025年2月 浴室全面リニューアル

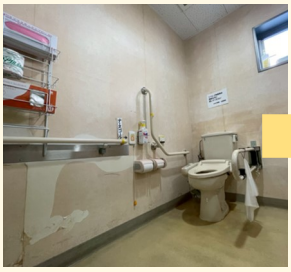
araeru

介助が必要な方の転倒リスクがありましたが、座ったまま前進を洗うことができるため、安全に気持ちよく利用いただけるようになりました。ガス代・水道代も各月5万円圧縮することができました。

2025年10月 北館トイレリニューアル

カルミック

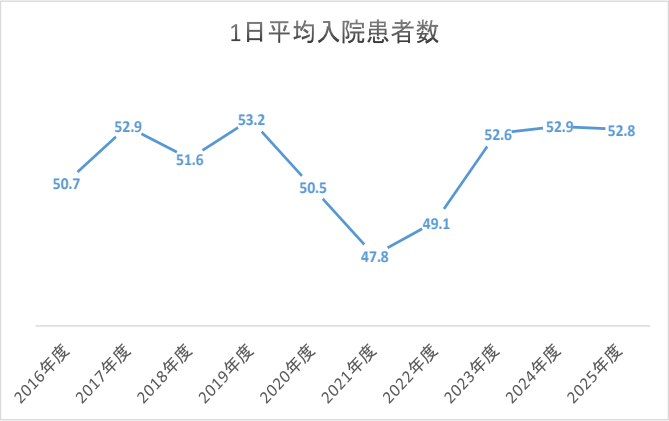
全面リニューアルを行い、気持ちよく使ってもらえるようになりました。水道代月5万円の圧縮につながっています。

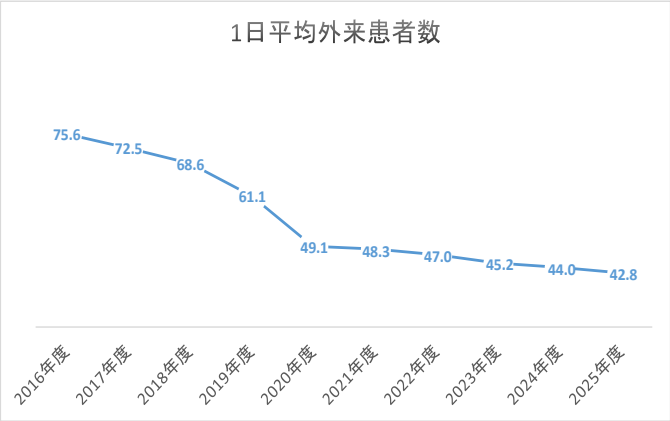


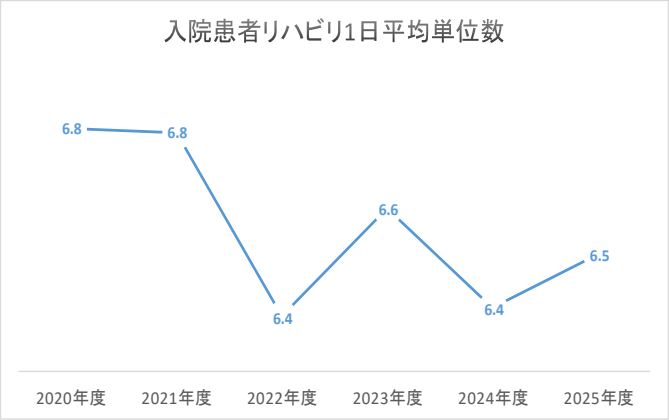
2025年11月～翌3月 リハ室全面リニューアル

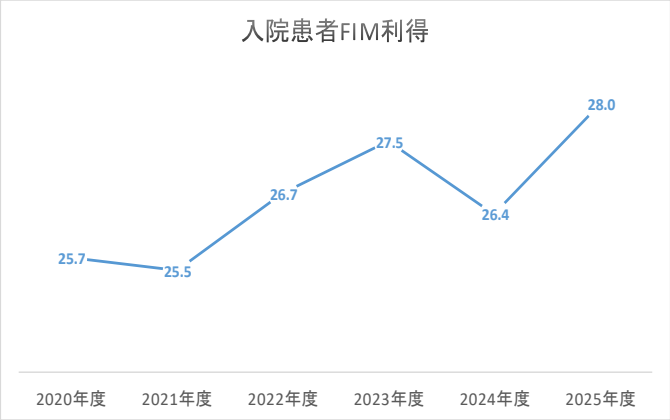
和室・リビングの移設で壁をなくし、部屋を広くすることでリハビリをよりたくさんできるように！リハ室の拡大で外来リハの積極的受け入れ・入院リハの質と量の向上を目指します。

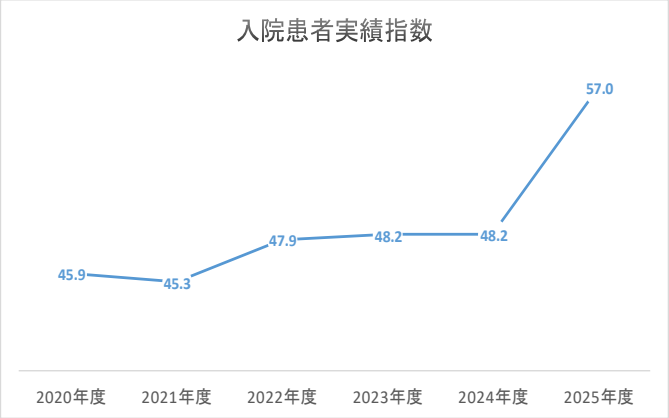
かなめ病院のデータ

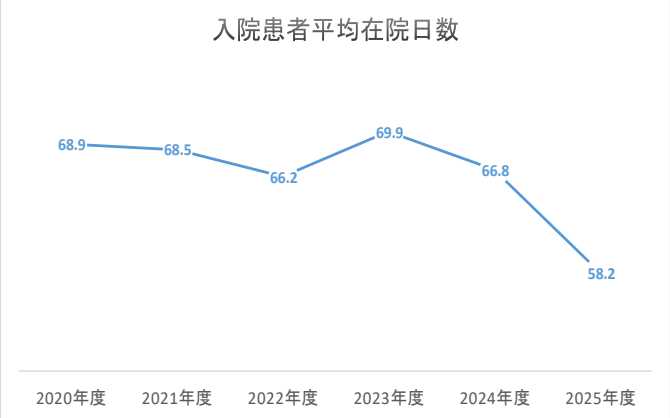

1日平均入院患者数
50.7
52.9
51.6
53.2
50.5
47.8
49.1
52.6
52.9
52.8
2016年度
2017年度
2018年度
2019年度
2020年度
2021年度
2022年度
2023年度
2024年度
2025年度

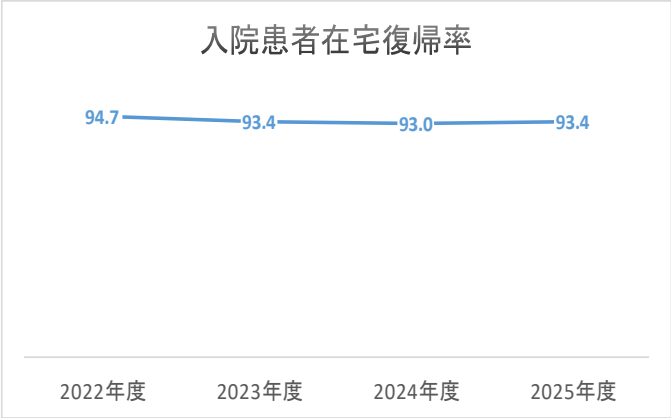

1日平均外来患者数
75.6
72.5
68.6
61.1
49.1
48.3
47.0
45.2
44.0
42.8
2016年度
2017年度
2018年度
2019年度
2020年度
2021年度
2022年度
2023年度
2024年度
2025年度

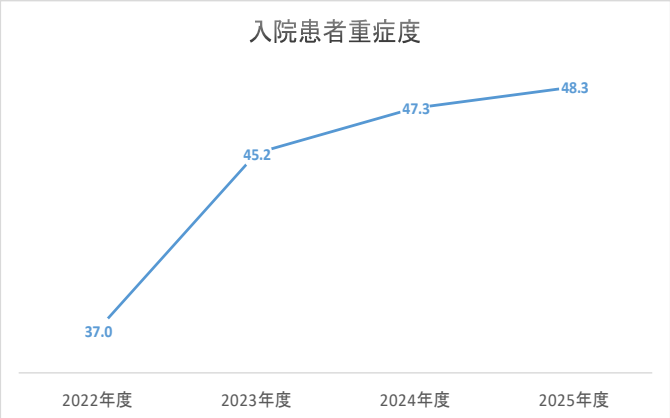

入院患者リハビリ1日平均単位数
6.8
6.8
6.4
6.6
6.4
6.5
2020年度
2021年度
2022年度
2023年度
2024年度
2025年度


入院患者FIM利得
25.7
25.5
26.7
27.5
26.4
28.0
2020年度
2021年度
2022年度
2023年度
2024年度
2025年度


入院患者実績指数
45.9
45.3
47.9
48.2
48.2
57.0
2020年度
2021年度
2022年度
2023年度
2024年度
2025年度


入院患者平均在院日数
68.9
68.5
66.2
69.9
66.8
58.2
2020年度
2021年度
2022年度
2023年度
2024年度
2025年度


入院患者在宅復帰率
94.7
93.4
93.0
93.4
2022年度
2023年度
2024年度
2025年度


入院患者重症度
37.0
45.2
47.3
48.3
2022年度
2023年度
2024年度
2025年度

おたがいさま運動

おたがいさまシート

お困りごとがある方とサポートできるという方がつながるシート。「困った」「助けて」をシートに記入し、地域ささえあいセンターに提出。センターでは届いたシートを解決できそうな組合員さんの元へ届けます。シートは困っている本人でもご家族でも、気づいたどなたでも提出できます。手助けしてもらったことがきっかけで元気になられる方も多くいらっしゃいますが、手助けする側も「この歳で人の役に立てるなんて幸せだわ」と。まさに“おたがいさま”の関係です。

様々なお困りごとの対応をしています

- ・安否確認
- ・家具の修理や移動
- ・話し相手になってほしい
- ・粗大ごみの処理
- ・外出・通院・買い物支援
- ・草取りや剪定

南医療生活協同組合

おたがいさまシート

センター記入欄	
No.	

どなたがどのような事に困っていて、どんな手助けを希望しているのかを具体的に記入しましょう。
ご本人または関係者の了承をいただき地域ささえあいセンターへFAX(052-625-0653)またはコピーを提出します。
このシートは個人情報に当たりますので、取り扱いに注意しましょう。

シート記入日　年　月　日	※太枠の中をご記入ください	2020.4改訂

困っている方記入欄				
フリガナ 氏名		男 ・ 女	南医療生協（ 組合員 ・ 未加入 ）	
生年月日	年　月　日（　歳）	住所		TEL
家族状況	（ 独居 ・ 核家族 ・ 3世代家族 ）	シート記入に関して本人または家族の同意（　月　日 ）		
困っていること・お願いしたいこと記入欄			書いた内容で当てはまるものに○をつけてください ①安否確認・話し相手 ②外出・通院・買い物支援 ③草刈り・庭木剪定 ④家具・家電の移動・修理 ⑤掃除・粗大ゴミ・古紙整理 ⑥家事支援 ⑦その他	

情報提供者記入欄	
氏名	
住所・所属	
困っている方との関係	
TEL	

センター員記入欄	
依頼済	
対応済	
情報提供者に報告	
対応後日付と○をつけてください	

対応者記入欄					
対応支部・職場		対応者		連絡先	
対応日	対応内容				対応者

おたがいさまの家みなあん

多世代　・多国籍の住民が分け隔てなく「　おたがいさま 」で 交流できる家

おたがいさまの家みなあんは2016年から運営を開始しました。ほとんど毎日開放し、地域の皆さんで班会や食事会などを取り組んでいます。

052-611-6100・名古屋市南区三吉町6-25

男塾

男塾は、南医療生協の名南ブロックで活動をしているグループです

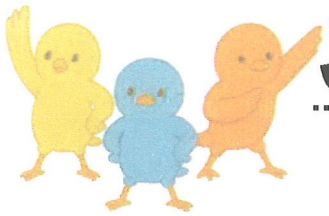
南医療生協のおたがいさまシートでだされる、地域住民の困りごとをメンバーの協力で解決しています。

＜男のサロン（新鮮野菜販売）＞
毎月第1・3火曜日　8:00～12:00
家庭菜園で育てた野菜の販売もしながら、男塾のメンバーで、コーヒーを飲んだり、将棋や囲碁を楽しんでいます。

＜男のサロン＞毎月第2・4木曜日9:00～12:00
男塾のメンバーで集まり、コーヒーを飲みながら交流しています。将棋や囲碁を楽しむこともできます。

ちょっとした困りごとはありませんか？

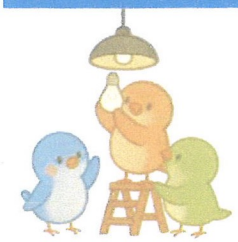
千鳥学区
地域支えあい事業



ご近所ボランティアがお手伝いに参ります！

たとえば、こんなお手伝いをします！

※対象：高齢や障がいなどで生活にお困りの方



電球の取替

ゴミ出しのお手伝い

資源回収の準備・運搬

簡単な庭木の剪定

その他、気になることは気軽に聞いてください！

ボランティアで解決できない困りごとは、
各専門機関につなぎます！

相談受付時間		月	火	水	木
午前	9:00～12:00	／	★	／	★
午後	13:00～15:00	●	／	／	／

お手伝いしてくださる
ボランティアさんも
随時募集しています！

●千鳥コミュニティセンター　TEL 070-1624-1065

毎週月曜　13時～15時　※第1・第3月曜は窓口対応可。その他は電話対応。

★おたがいさまの家 みなあん　TEL 090-2923-9312

第1・第3火曜 / 第2・第4木曜　9時～12時

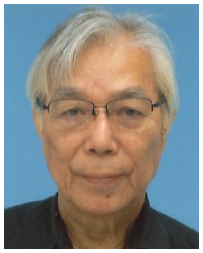
このまちはくらしの優しさや思いやりがあふれています

南医療生協　男塾代表　松下繁行

かなめ病院25周年の重みは、地域で直し支える医療をぶれずに、ドクターはじめ職員、地域の方がたとともに、普通のように作り上げてきたことだろうと思います。２０１０年から始めたおたがいさまのまちつくりは、かなめ病院を中心に年間約８０件の一人の困ったに寄り添い、１５年続けています。そして様々なところと連携連帯し解決してきました。地域や、患者さんのSOSの声を真に受け止め、南医療の大きな理念でもあるおたがいさまの街つくりを正面からぶつかり、地域を這いずり回り、職員と力を合わせ解決してきました。そのことが、南区社協さんの心をつかみ、千鳥学区との名古屋市支え合い事業を２０２５年度６月からはじめました。現在千鳥学区会議にも南医療生協として、出席し、様々な学区の取り組みにも参加し、普通のように学区内に溶け込み、支え合い事業を展開しており、かなめ病院も健康、くらし、の相談窓口も常時開設し、地域の期待にこたええようとしております。くらしのやさしさ、思いやりがあふれる街にかなめ病院の存在は大きいです。これからです地域とともに。

千鳥学区散見

千鳥学区区政協力委員長 藤木 久元



千鳥学区は、名古屋市内においても、南区においても最も高齢化が進んでいる地域であるといっても過言でありません。しかし、学区内には多くの福祉施設が点在し、かつ、南医療生協、名古屋キリスト教社会館との連携のもと、他の地域には類を見ない、支え合いのシステムがあります。

たとえば、家具の固定、庭木の剪定、ゴミ出し等々、各ご家庭でお困りの方は、「みなあん」又は「学区コミュニティセンター」を窓口として連絡してくだされば、ボランティアの方がお手伝いに伺います。また、このように活動するボランティアの方々も広く募集しています。

さらに地域は、個別避難計画のモデル地区として、寝たきりなど、重度の障害者等の方でも、避難させる体制も整えつつあります。南区内での対象者約200名のうち半数の約100名がこの千鳥学区内に在籍し、福祉施設が対応する方、個別に町内等で対応する方やご家族等が対応する方々がおります。私たちの目指すところは、暮らしやすい安心で安全なまちづくりで、特に力を入れているのが「防災に強いまちづくり」であります。学区で様々な行事を開催していますが、「全ての行事は防災に通ずる」と思っております。それぞれの行事を通じて、皆が顔見知りになることは、災害時、いざという時に皆で助け合える、大きな力となります。

また、地域医療としてのかなめ病院では、認知症等を含めての相談窓口があり、民生委員は社会福祉協議会と連動して、地域の見守り活動をおこなっております。そもそも地域は、至る所でお互いを思いやる心が根付いております。「おかげさま」、「おたがいさま」と言い合えるのが、日本の古来の文化であり、これからも残して行きたい思いであります。

昨今、自分自分の「自分至上主義」といわれる時代だと言われるかも知れませんが、相手の立場に立って物事を考え、ひとりひとりがそれぞれ、自分に何ができるのだろうと持ち合えば、非常に大きな力となってきます。地域は、そんな人たちの支え合いで成り立っています。支え合い、思いやりのあるまちづくりに、ぜひ皆さんのお力をお貸しください。

千鳥学区地域支えあい事業のスタートについて

名古屋市南区社会福祉協議会　事務局長　中沢伸生

南区社会福祉協議会公式キャラクター
まいまい&あいあい

かなめ病院が開院25年を迎えられましたことに、心よりお祝い申し上げます。地域を支える医療機関として、住民の皆さまに寄り添い続けてこられた歩みに、深く敬意を表します。

令和7年6月より、千鳥学区では「地域支えあい事業」がスタートしました。地域支えあい事業は、一人暮らしの高齢者や障がいのある方などが抱える“ちょっとした困りごと”を、地域の皆さまの助け合いによって解決していこうとする取り組みです。令和7年12月現在、市内266学区のうち120学区で実施されており、人と人とのつながりを大切にしながら、誰もが安心して暮らせる地域づくりを進めております。

南医療生協の「男塾」をはじめとした地域での熱心なボランティア活動を、地域支えあい事業として千鳥学区様・南医療生協様・社会福祉協議会が協働で進めることで、活動の輪がさらに広がるのではないかと考え、本事業を立ち上げました。地域の皆さまに温かく受け入れていただき、スムーズに開始できたことは、長年にわたり地道に活動を続けてこられた皆さまへの信頼の証であると感じております。

近年、社会の変化によりご近所同士の関係が薄れつつありますが、やはり頼りになるのは人と人とのつながりです。誰もが助け合える地域を目指し、支援を必要とする方だけでなく、支える側の方々にもやりがいを感じていただけるよう、これからもサポートを続けてまいります。支えあい事業を通じて、SOSを出しやすい地域に、さらにはSOSを出す前に気付ける地域にしていくことが理想です。

今後も地域福祉のさらなる発展に向け、社会福祉協議会として関係機関の皆さまと連携・協働を深めながら取り組んでまいります。

貴院のさらなるご発展と、職員の皆さまのご健勝を心よりお祈り申し上げます。

かなめ病院　医療構想（2023年7月29日）

ささえます、地域における自分らしい暮らし

●かかりつけ病院として、生活背景を念頭においた診療方針を共に話し合って決めます。

●本人の思いを尊重し、機能回復・在宅復帰を目指したリハビリテーションを提供します。

●住民の健康づくりに取り組み、元気で長生きできるまちづくりを地域とともにすすめます。

●協同の医療・介護を実践できる人財育成に努めます。

ホームページ　インスタグラム

@KANAME_HOSPITAL

南医療生協　かなめ病院

25周年記念誌

発行日：2026年3月11日

【南医療生協　かなめ病院】

診療科：内科・神経内科・老年内科・整形外科・

リハビリテーション科・放射線科

回復期リハビリテーション病棟 60床

デイケア・居宅介護支援事業所・介護支援事業部（福祉用具）

名古屋市南区天白町一丁目5番地

TEL　052-619-5320　・　FAX　052-686-2494